

令和6年度愛知県立西春高等学校 学校評価

本年度の 重点目標	1 主体性を育む 2 キャリア形成を支援する 3 自己肯定感を高める 4 教職員はメリハリのある勤務を心がける		
項目（担当）	重点目標	具体的方策	留意事項
総務 （総務部）	① 防災減災体制の整備と充実	・防災減災対策の強化 ・北名古屋市との連携と外部講師の活用 ・防災委員会の充実	・文化祭や総合的な探究の時間を活用し、北名古屋市と連携して防災用品の使用体験ができる機会を設ける。 ・外部講師を活用し、浸水害への対応を生徒が主体的に考えられるようにする。 ・防災委員会を中心として、生徒の意見を避難訓練等の防災減災行事に取り入れるとともに、防災減災意識の高揚に努める。
	② 魅力ある学校像の発信	・学校説明会の充実 ・新しい広報体制の確立	・学校説明会の企画の充実を図るとともに、申込手続きのオンライン化を推進する。 ・学校案内の内容を見直すことで、より多くの中学生に本校の魅力が届くようにする。
学習指導 （教務部）	① 主体性を育む授業実施と評価法の研究	・主体性を育むための授業展開とその評価法を研究し、生徒が主体的に活動した内容を、より実態に沿うよう評価するしくみを模索する。	・3年生の成績処理システムを確立しつつ、1、2年生についても既存の成績システムを見直し、より主体的な活動を評価しやすいしくみを模索する。 ・主体的な授業展開を校内で共有し、学校が丸一となってより良い授業を研究する環境をつくる。
	② 授業の創意工夫と研究授業期間の充実	・研究授業期間の内容を見直し、主体的、対話的な授業方法を校内で共有する。	・教科を超えて授業見学や研究を行える環境を確立する。 ・他の教員とのコミュニケーションの機会を多くつくり、より良い授業方法を学校全体でつくりあげる環境を確立する。
生徒指導 （生徒指導部）	① 社会規範の確立といじめの防止	・身近な交通のマナーや規則の遵守から公共性や社会性の拡充を図る。さらに、いじめを許さない健全な心の育成を図る。	・地域に支えられているという身近な事象から体験的に考察させ、社会を構成する貴重な人材であることを意識させる。また、将来は組織のリーダー的存在として社会貢献する意識の高揚を図る。またいじめに関するアンケートの実施により、生徒一人ひとりの現状をより客観的に分析し、問題があれば学校が迅速な対応を取ることで生徒の信頼関係を得られるようにする。
	② 学校生活の充実	・より良い学校生活に向けて、校則の見直しや改訂をする。	・校則の見直しや制服の検討に伴い、生徒や保護者などの意見を参考にし、より良い学校生活を送られるように多くの視点から検討する。
進路指導 （進路指導部）	① 学力向上を目指す学習指導・自ら考え、夢を実現する進路指導の充実	・生徒の進路意識の高揚を図るガイダンスや進路研究の実施 ・入試問題研究や模試結果の分析に基づく指導の充実 ・基礎早期テストを通じた基礎力の定着と学習習慣の確立	・大学合格だけが目的にならないよう、大学になぜ進学するのか、何をどのように学ぶのかなど、進路を自身の問題として捉えさせられるようなガイダンスや進路研究の在り方を検討する。 ・入試問題や各種模試、学年の状況を分析し、授業や補習等に活かしていく。 ・模試や基礎早期テストなど、結果だけに捉われることなく、先を見据えた学習に取り組むよう指導する。
	② 多様化する大学入試への対応	・生徒、保護者等に対する適切な情報発信 ・最新の情報の正確な把握	・生徒対象進路ガイダンスや受験説明会、保護者等対象の説明会が充実したものとなるよう、内容や実施方法等を検討する。 ・教員向けの大学説明会等に積極的に参加し、情報収集に努める。
保健厚生 （保健厚生部）	① 教育相談の充実	・教育相談と特別支援の分担を明瞭にすることで、個々の生徒への対応を充実させる。	・担任・部顧問・家庭との連絡を密にし、外部との連携も利用して生徒の支援に努める。 ・教員間の情報共有をして現状を把握し、支援の方法をよりよいものにしていく。
	② 環境美化活動の充実	・環境負荷が小さい清掃方法について検討しつつ、環境美化に対する生徒に意識を高める活動を行う。	・美化委員会の活動を通して、清掃方法やごみの減量について生徒に考えさせ、実行させる。
生徒会活動 部活動 （特別活動部）	① 学校行事の充実	・行事委員の活動を充実させ、生徒が主体的に取り組むことのできる学校行事となるように工夫する。	・各ホームルームやブロックが団結できる学校行事を目指していきたい。特に3年生が活躍できる文化祭、体育祭を実現させる。
	② 生徒会活動の充実	・生徒議会の効率的な運営と各委員会との連携を充実させる。	・各委員会、生徒議会の開催時期や時間を再検討し、効率的な運営を目指す。
図書情報教育 （図書情報部）	① 読書活動の推進と適切な配架と除籍	・読書に親しみを持てるような啓発活動を行う。積極的に配架と除籍を行う。	・“開かれた図書室”を目指し、開館時間・日数を増やしたり、本の魅力的な紹介をしたりする。配架10年以上を超えた書籍については除籍を考える。
	② ICTの利用の推進	・ICT（ロイロノートやTeamsなど）の効果的な活用を図る。	・ICTガイダンスをYouTubeやパワーポイントなどを利用して発信し、理解を深める。 ・ロイロノートなどの研修会を校内外を問わず、積極的に活用する。
学年指導 （第3学年）	① 社会を生き抜く力の育成	・今年度成人になることを自覚させ、主体的で責任感のある行動力を育成できるよう働きかける。	・社会を生き抜くために、自分の意志で決断することの大切さを様々な場面で伝える。 ・生徒が責任を持ち、考え、自分自身で決断できるよう、教員や保護者など周囲の大人が答えを与えずにぎないよう配慮する。
	② 目標の実現に向けての指導の充実	・丁寧な進路指導のもとに、主体的な選択を促す環境を整える。	・授業や補習等を活用し、多面から生徒の学力向上をサポートする。 ・結果だけで判断するのではなく、努力の過程を重視して前進できるよう支援する。
学年指導 （第2学年）	① 規則正しい生活習慣と授業を中心とした学習習慣の確立	・授業に集中する環境を作り、自ら学ぶ姿勢を持った学習習慣を確立させる。	・授業を中心とした予習、復習を大切にさせる。 ・学習指導の中で、進路実現に向けて自ら学ぶ姿勢と自己解決能力を育成する。
	② 学校活動における主体的行動力の育成	・様々な活動を通じて、主体的に考え積極的に行動できる力を養う。	・学習だけでなく、部活動や学校行事など様々なことに挑戦させる。 ・中心学年としての自覚を持たせ、学校活動において下級生を先導できるよう支援する。
学年指導 （第1学年）	① 規則正しい生活習慣の確立	・遅刻、欠席をしない、時間、提出期限を守るなど学校生活の正しい習慣化。	・遅刻、欠席の少ない集団になるよう、声がけする。 ・すべてにおいて、時間、期限を超える時は事前に連絡、相談することの重要性を伝える。
	② 自ら考え行動する態度の育成	・自ら考えさせることで、能動的に行動できるよう促す。	・行事やHR活動で、生徒が考え行動する機会を増やし教員は支援にまわる。 ・善悪の判断を間違えないよう、見守る。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		・ICTの積極的な活用や学習活動を通して生徒の主体性を育む。 ・日々の学習や特別活動等を生徒のキャリア形成に生かすとともに、生徒の自己肯定感を高める活動の工夫をする。 ・全教職員が、いじめの兆候を見逃さず、積極的にいじめの認知に努める。 ・業務の役割分担の見直しを図るとともに、在校時間記録の状況の結果を活用し、勤務の適正化を図り教職員の確実・適切なメンタルヘルスの保持に努める。	